

# しょうろうびょうし 生老病死

老いる苦しみ、病む苦しみ、死ななければならぬ苦しみ、そして老い病み死ぬことを内容とする人生に生まれる苦しみ、これを合わせて「生老病死」の四苦と仏教は表します。

生まれることも死ぬことも、自分ではどうしようもないことです。計画をたてより良い条件を選んで生まれたわけではありません。死もままならない事実です。だからと言って「しかたがない」と生きていくのかというと、それでは済ませられない、空しく終わりにたくないと思うから、「生苦」や「死苦」を感じます。いつまでも若く元気でありたいと考えて、アンチエイジングの情報があふれているのは、「老苦」の裏返しでしょう。様々な健康法や健康食品があふれているのも、病や死への畏れが私たちが捉えているからではないでしょうか。

生や死の苦しみを感じなければ「楽」になれるのでしょうか。それは別れる悲しみを感じなくなることです。いつまでも若く病むこともなければ「楽」でしょうか。それは病む人の辛さを思いやれなくなることもかもしれません。

憎む相手を打ち負かせば「苦」が消えて「楽」になり、求めていた物が手に入れば「楽」になるのでしょうか。気に食わない相手は、次々と出てきます。手に入れば別の物が欲しくなります。私たちは、いろんな原因と条件を縁として生きています。それを全て思い通りにしようと力んで、苦を楽にしようとします。それが更なる「苦」を生むのです。

「一切皆苦」。人間の生き方が「苦」を生むのです。「苦あれば楽あり」の全てが「苦」であるということが、仏様の教えです。楽を求めて、先ず私が楽になろうとあがくことが、さらなる「苦」をもたらしていたと目覚めたのです。その目覚めは、全ての人に通じる目覚めです。

岐阜高山教区不遠寺住職 四衢 亮

よつじ あきら

大谷祖廟の Instagram をご存知ですか？

フォロー、拡散、また「#大谷祖廟花文字 #大谷祖廟」をつけて投稿してください！

お問い合わせ：大谷祖廟事務所 京都市東山区円山町477 TEL 075-561-0777



@OTANISOBYO